

趣旨を素案に反映した意見等

基本構想について

「共生社会」の実現を方向性として示してほしい。
地球をもっと重要ととらえてほしい。
人材(市民)を大切にしている(活かす)文章を入れてほしい。
サブテーマ的な文をもっと取り入れてほしい。
前総合計画の振り返り、見直しをしてから議論を進めるべき。
基本から抜本的に変えるべき。
総合計画は主体性、独自性を発揮して作成、策定したほうがよい。
人口増加を手放して喜ぶだけではなく、住み 働くという地域循環型産業の創出が必要。
『文教住宅都市』は市民から一定の理解は得ていると感じる。
第3 主な課題には、産業の課題(地元での起業、産・商業をうみだす)が必要。
第3 主な課題では、一般論ではなく、具体的な記述も必要。
第3 主な課題(2)では、事業者の役割も記述する。
第3 主な課題(3)には、住民が主人公であるという観点が必要。
第3 主な課題(4)では、「ICT」という言葉を日本語表記にすべき。
第3 主な課題(4)では、「教育、産業、文化」の後に「医療、福祉」を入れるべき。
第3 主な課題(5)では、小・中学校に外国籍やハーフの子どもがいるといった具体的現状を記載すべき。
第3 主な課題(6)では、西宮市が阪神間で主導的な役割を担うという記述が必要。
第4 まちづくりの基本目標では、ライフワークバランス(住み、学び、働く)の観点が必要。
第5 施策の大綱で、『あんしん・あんぜん』では、「交通安全」、「バリアフリー」を入れるべき。
第6 総合計画の推進に向けてでは、「行政の人材育成、資質の向上」、「広報の強化」、「情報公開の推進」といった考え方が必要。

1(人権問題の解決)について

現状と課題、主要な施策展開に配偶者や恋人という親密な関係における暴力(DV=ドメスティック・バイオレンス)について記述する。
現状と課題に、DVによる被害者の救済・社会的支援が求められていると追加。
人権を「人間が人間らしく生きるために生来持っている権利」と理解すると、大きく人権を捉えて、「人間として生きる権利を大切にすまち」を目標に掲げる。
DVだけではわかりにくい。
経済苦による自殺者が増えている。経済的弱者の人権についての記述が必要。
社会の現状からいくと、現状と課題はこれでは足りない。
広報の充実(情報の提供)を書いてはどうか。
基本方針に「人権の保障」を入れるべき。
現状と課題で、生活困窮者の内容を盛り込んでどうか。生活保護を受けていると揶揄されるため、すでに人権問題として捉えていいのではないか。

3(多文化共生社会の構築と国際交流の推進)について

現状と課題に、市内の外国人児童・生徒の数をに入れるべき。
市民一人ひとりの活動では、「理解する」だけでは駄目なのではないか。

趣旨を素案に反映した意見等

5(市民活動の支援)について

団体は法に基づくNPO団体だけではないので、主要な施策展開(3)の名称のNPOの後に「等」を入れて欲しい。
市民一人ひとりの活動に「参加」を入れて欲しい。

6(生涯学習の支援)について

子どもから高齢者まで学習できる環境づくりやニーズに合わせた内容が必要。
大学との連携・交流が必要。

7(公民館・図書館機能の充実)について

公民館を地域の拠点として位置づけるために、今後の方向性を明確に打ち出すべき。
子育て中の親の支援を考慮してほしい。
公民館活動は夜が基本となるため、家事がある人は参加したくてもなかなかできない。
障害者など、少数派の人へスポットをあてた計画内容にしてほしい。
中央図書館のビデオ映画会、その他の催しの活性化が必要。

8(芸術・文化の創造)について

西宮市で活動している文化・芸術・アーティスト関係の若手を支援・育成する。
(文化の町として)西宮ブランドを全国的に売り出す方策を積極的にすべき。

10(子育て支援の充実)について

主要な施策展開に、次世代育成支援対策推進法に定められた「次世代育成支援行動計画」に基づく子育て支援事業の適切な運営・推進と、計画の進捗状況の調査、公表を記述する。
主要な施策展開に、「西宮市要保護児童対策協議会(みやっこ安心ネット)」の連携強化と、健やか赤ちゃん訪問事業などの推進、地域と連携した安心できるネットワークについて記述する。
主要な施策展開に、保育所待機児童の解消、特別保育の拡充や多様化する保護者の勤務状況に対応できるなどの多様な保育サービス、ファミリー・サポート・センターなど市が協力できる機関のよりよい機能化について記述する。
主要な施策展開に、子育て支援に協力する企業・団体への支援について記述する。
主要な施策展開に、DV被害者への支援施策の充実について記述する。

11(家庭教育の支援と青少年の健全育成)について

子どもが健やかに、安全に育つために、他市では、登下校の際に警備員を配置している。子どもの安全という視点に立ち、庁内連携の下に、定年退職された方やボランティアを募るなど全市的に取り組む必要がある。
学校以外で中高生が健全に育成できるような場所がない。居場所がなくなっている。
子どもの居場所作りには、場所の提供とともに、スタッフの確保も必要。

12(学校園教育の充実)について

基礎学力とともに学んだことを生かす力を養って欲しい。与える教育から気づく教育へ。
地域に応じた食育を。「地産地消」「生産者の保護」「豊かな味覚の形成」など。
環境学習の充実を。与える教育から気づく教育へ。
「ささえ」など学校のサポート体制を充実すべきだ。中高年がもっと参加できるように。

趣旨を素案に反映した意見等

13(信頼される学校園づくり)について

地域の見守り隊など、学校と連携して子どもの安心安全を図る。

14(計画的・効率的な学校園施設運営)について

安心して学べる学習環境を整備すべきだ。プレハブ校舎や冷暖房など。
教室不足の解消や、校舎における耐震、防火、アスベスト対策が必要。
防災は教師の仕事ではなく、市教委・市役所が防災・管理責任を持つ体制を。

15(地域福祉の推進)について

阪神甲子園駅はバリアフリー化されておらず、いまだに障害者にとって利用困難な状況が続いている。甲子園駅は阪神甲子園球場の最寄の駅であり、全国から多くの人を訪れる関西のシンボルともいえる場所です。その駅がバリアフリー化されず、障害者が使いにくい駅というのは非常に恥ずかしい状況である。障害者や高齢者等が公共交通機関を安全・円滑に利用できるように、総合計画の中で検討し改善することが必要である。
基本方針を「市民一人ひとりの地域に対する思いやりや福祉に対する意識を高め、地域活動や福祉活動を積極的に応援し地域福祉活動の啓発に努めます。」とする。
福祉活動の大切さを前面に打ち出し啓発し、行政としての目標もしっかりと示すべき。
鉄道駅舎のバリアフリーについては、「阪神甲子園駅」とはっきり明記してほしい。

16(高齢者福祉の充実)について

基本方針を「すべての高齢者が地域社会を構築する重要な一員として尊重され、尊厳を保ちながら生涯にわたって住み慣れた地域で、安心した生活が送れるよう、コミュニティを活性化するとともに、医療、福祉、保健等の高齢者施策の充実を図ります。」とする。
主要な施策展開に、「第5次西宮あんしんプラン21」(西宮市高齢者保健福祉計画・西宮市介護保険事業計画)に基づく高齢者保健福祉事業等の推進について記述する。
主要な施策展開に、援助を必要とする高齢者への施策の充実(一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者、低所得高齢者等の実態的確な把握し、必要な施策、介護保険制度の利用についての広報の充実、介護保険制度を補完する施策の展開)について記述する。
主要な施策展開に、コミュニティの核としての地域包括支援センターの機能・体制の充実、高齢者が地域活動に積極的に参加できる施策の展開について記述する。
現状と課題では、高齢者の実態が変化しているという認識が必要。

17(障害のある人の福祉の充実)について

西宮では入院時において公的な介助制度を利用できない。全国的には、入院時のも公的な介助を保障している自治体があり、また、障害者自立支援法の中の地域生活支援事業で市町村に要望できることになった。総合計画の中でも、全身性障害者の入院時の介助制度を整えるよう取り組むべきである。
施設から居宅へと法によるホームが誕生しているが、規模が小さくなった分、介助する職員のハードさや労働時間軽視に職場を離れるものが後をたたないし、職員が将来も引き続き働きたいと希望を持つような職場になっていないのが現状だ。
障害者の人権を尊重するという表現では、市としての姿勢が弱い。絶対に「保障」という表現にすべきだ。

趣旨を素案に反映した意見等

18(生活自立の援助)について

<p>主要な施策展開を以下のように変更する。</p> <p>(1)低所得者(貧困層)施策の推進 憲法二十五条を実現するための制度である生活保護制度を、生活難に陥った市民に対し柔軟に適用する施策を展開します。適用基準の柔軟性を広く広報などで知らせることによって同制度の推進を図ります。一億総中流社会から格差社会へと移った過程には、市民などが負担する税金などの制度改革や、国の規制緩和・構造改革などの施策が原因であったため、市行政としては、社会資本の再配分機能を十分発揮する責務があるとし、施策を展開します。</p> <p>(2)生活援護資金の柔軟な運用 生活援護資金は、生活困窮者に対する無利子の貸付事業であり、生活保護の適用が困難な特に健常な65歳以下の市民にとって最後のセーフティーネットであるため、柔軟で効果的な運用が求められている。適用条件や貸付額においても柔軟な対応できる施策を展開します。また、厚生課は高金利被害などの相談にあたっている市民相談課などと連携し、申請手続きにおいて困難が生じた市民に対しては、市の裁量によって解決できるよう施策を展開します。期限内の償還率が50%を割っているが、生活の自立支援を果たすことを第一課題として取り組むことを念頭とします。自立した市民を作り出してこそ、優良な納税者を生み出すことを考えます。</p>
--

19(健康増進と公衆衛生の向上)について

<p>主要な施策展開に、母子保健施策の充実について記述する。</p>

20(医療サービスの充実)について

<p>どの医療機関にどのような設備がととのっているのか、どのような医師がいるのか、情報公開をするともに、市民が相談にいける窓口が必要である。</p>
<p>医師についての情報については、どれだけの経験があるのかなど詳細な情報の提供が必要。</p>
<p>民間におけるAED設置気運が高まっている。もっと使いやすくするために広報に努める必要がある。</p>
<p>市立中央病院では、ある方検討委員会からの答申に基づき、救急トリアージについて施策展開に記載すべきだ。</p>

21(医療保険・医療費助成・年金制度の安定)について

<p>国民健康保険は皆保険が原則と言いながら、それが揺らいでいる。この現状を「現状と課題」に記載し、保険料を下げるための財政支援を国・県へ要望するという姿勢が必要だ。</p>
<p>後期高齢者医療制度は、国の取り組みだから「開始した」ではなく「開始された」ではないか。また、「後期高齢者医療制度については、広域連合の一員として協力します」などの表現におさえておいたほうがよいのではないか。</p>

22(災害・危機に強いまちづくり)について

<p>個人情報保護法が高齢者保護を邪魔している。民生委員と町内会役員の情報交換がしにくい。早く何とかすべき問題だ。</p>
<p>大規模災害の発生時、市内各所で出火した場合は、消防署に頼れないため、自主防災は重要。</p>
<p>自主防災も実態は高齢者と女性ばかりで、全く機能していないケースがある。</p>
<p>地域の高校生や中学生に1年に2度ほど訓練を受けてもらい、協力してもらうのはどうか。</p>
<p>主要な施策展開(2)で「組織強化」というのはわかりにくい。「活性化」などに改めるべき。</p>
<p>市民一人ひとりの活動には防災訓練への参加についても入れるべき。</p>

23(消防・救急救助体制の充実)について

<p>大規模災害の発生時、市内各所で出火した場合は、消防署に頼れないため、自主防災は重要。</p>
<p>自主防災も実態は高齢者と女性ばかりで、全く機能していないケースがある。</p>
<p>消防署自身の耐震化を進める。</p>

趣旨を素案に反映した意見等

24(道路の整備)について

道路幅が狭くて歩道が作れないのは自動車優先の考えではないか。市は毎年計画的に自動車の通行を禁止する歩行者専用道路を増やしていけばよいのではないか。

25(公共交通の利便性向上)について

循環バスを走らせるなどの記述がほしい。
積極的なノンステップバスの導入が必要。まちづくり指標にノンステップバス導入率を追加する。
まちづくり指標で、ノンステップバスの導入率の目標30%は低すぎないか。
市民一人ひとりの活動には公共交通でのマナーについて入れるべき。

27(下水道・河川の整備)について

主要な施策展開(1)の「時間雨量55mm」には説明がいる。
主要な施策展開(4)の「多自然型工法」の「型」はいらぬ。

28(良好な住宅・住環境の整備)について

住宅の耐震化は非常に重要である。
住民がコミュニティを形成し、情報交換しながらまちづくりを進めなければならない。
駅近くで便利な場所に市営住宅障害者枠を確保すべき。
市民一人ひとりの活動に「住まいを適正に維持、管理する」という内容を入れる。

29(交通安全対策と駐車対策)について

自転車利用者のマナーが大事な問題である。

31(消費生活の安定と向上)について

個人が自覚し、自立するということを目標にした基本方針にすべき。
高齢者、学生、障害者等に対する情報の提供が課題である。
相談件数のグラフは、市の状況だけでなく、全国の状況と重ねる方がわかりやすいのではないか。

32(環境学習都市の推進)について

地球温暖化防止(CO ₂ 削減)についての記述が必要。
地球温暖化対策を追加するなら、施策の名称も変えるべき。

34(資源循環型社会の形成)について

まちづくり指標で、処理原価1人当りでは年度ごとの1人当りのごみ排出量にばらつきがあり、比較指標として不適切である。

35(魅力的な市街地の形成)について

核間道路より「西国街道」などの歴史街道に注目し、沿線の寺院や旧跡を大切にすべき。
「狭隘道路の改善」は重要。歩道の設置により高齢者も安心して歩けるようにすべき。
「農地の保全」は非常に大切。
基本方針では、「都市計画マスタープラン」にあまり捕らわれない方がいい。

趣旨を素案に反映した意見等

36(美しい都市景観の形成)について

都市景観を形成する建築物の写真が掲載されているが、大学の写真が多い。都市景観を形成するのは建築物だけか。
--

38(大学との連携・交流)について

大学と連携し、教育学部など将来教職を目指す学生の中で、優秀な生徒を養成しては、いずれその学生が西宮市で教師として活躍していただきたい。
西宮市民にとっての大学の利益性を明確にすべき。

39(都市型観光の振興)について

主要な施策展開に、文化・芸能・芸術等と地場産業の融合による観光事業の創出を追加する。
--

40(産業の振興)について

集客施設が進出してきた後、周辺の商店街等はどうするのか？
主要な施策展開に、産学連携を入れる。
主要な施策展開に、地域人材の発掘、西宮在住市民の商業や産業に関する人材資源を活かす方法(特に高齢者)について記述する。
主要な施策展開に、工場に対するCO2の削減などの環境の部分を入れる。
市民一人ひとりの活動に「市内で働き、市内で買う」といったことを記載する。

41(勤労者福祉の向上)について

中核市への移行も踏まえて、市が積極的に雇用対策を行うべき。
働く人の権利を市が守るという姿勢をはっきり記載すべき。
外国人労働者への訓練、権利が必要。
障害のある人について、雇用促進の施策しかない。(基本方針に合っていない)
高齢者や女性を労働資源としてどう活かすか、という視点も必要。
高齢者については、シルバー人材センターだけでいきがいただけた。高齢者雇用の視点もいる。

42(都市農業の展開)について

農地の多面的な側面について入れてはどうか。ただし、防災機能というのは市民の意識としては無いと思われる。
振興をいうのであれば、地産地消を入れる。
農家数の現状や後継者問題を考えれば“今の農地を減らさないよう”にするという目標が良い。

計画推進 7(広報・広聴活動の充実)について

施策の数値目標だけではなく、きめの細かさを求められる指標の設定が必要で、市民の声を聞く姿勢(窓口)とそれらに対応する仕組みづくり(ソフト的指標)が必要だ。
市民のための広報・広聴という視点から、現状と課題、基本方針、主要な施策展開を考えるべきである。